

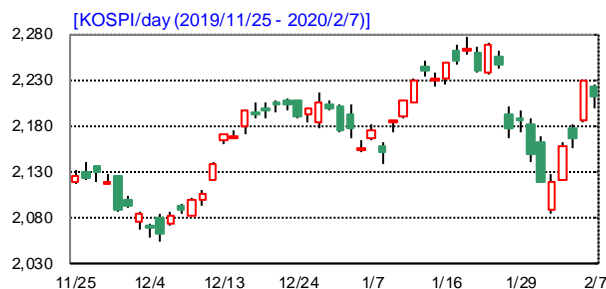


【韓国】 総合指数は 4.4%高と 3 週ぶり反発、買い戻し優勢 2200 ポイント台を回復

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 4.4%高と大幅に 3 週間ぶりに反発した。前週に 5.7%安と急落しており、買い戻し優勢の展開。週明け 3 日は小幅ながら 3 日続落したものの、主力のハイテク株が相場を支えた。4-6 日は新型肺炎の感染拡大が韓国経済や世界経済に及ぼす根強い懸念が上値を抑える場面もあったが、米中株高を背景に 3 日続伸。引き続きハイテク株が上昇を主導した。特に 6 日は中国の景気対策や中国当局が対米追加関税を一部引き下げると発表したことも好感され、前日比 2.9%高で 2200 ポイント台を回復し、1 月 23 日以来、約 2 週間ぶり高値を更新した。7 日は利益確定売りが重荷となり、4 日ぶりに反落している。今週も引き続き新型肺炎関連の動向に注目。国内では 1 月の失業率や貿易統計などが発表される。

▼指数チャート

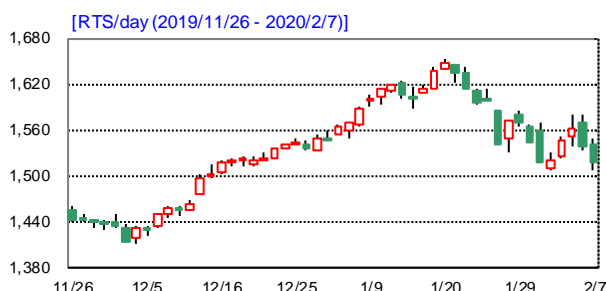


【ロシア】 RTS 指数は 0.1%高と 3 週ぶり小幅反発、今週は新型肺炎が焦点か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 0.1%高と 3 週ぶりに小幅に反発。週半ばまで堅調に推移したが、原油安や利下げを受けたルーブル安が嫌気され、週後半は売りが優勢となった。前週に 5.2%の大幅安となった流れで押し目買いが強まる中、新型肺炎への警戒感の後退やルーブル高、原油高を背景に週半ばまで堅調に推移した。ただ、週後半は原油相場の下落やルーブル安で続落。ロシア中央銀行が 7 日に政策金利を 6.25%から 6.00%に引き下げ、ルーブルが売られた。RTS 指数は 5 日の場中に前週末比 4.1%高まで上昇したが、7 日終値は横ばいだった。個別ではアエロフロート・ロシア航空、MMC ノリリスクニッケル、ズベルバンク・オブ・ロシアが上昇した一方、ノバテク、ロスネフチが下落。今週は新型肺炎の動向が焦点か。

▼指数チャート



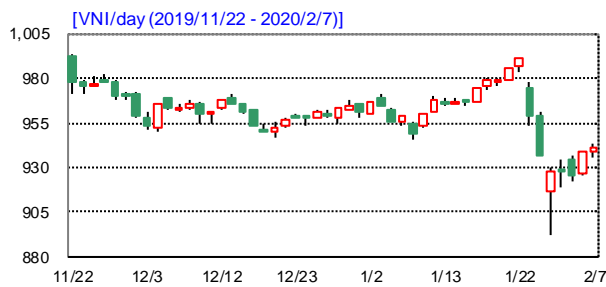
【ベトナム】 ベトナム指数は週間で 0.4%高と反発、今週も新型肺炎情勢の動向次第か

第か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 0.4%高と反発。新型肺炎の感染拡大による景気悪化懸念で週明けに一時急落したが、その後は過度な警戒感が後退し、週後半は堅調に推移した。新型肺炎の感染拡大で前週に 5.5%安となった VN 指数は週明け 3 日も軟調。中国との航空便の運航を停止したことで一時的に前週末比 4.8%安に急落した。終値では 0.9%安と下落幅を縮小したものの、4-5 日も狭いレンジでもみ合った。ただ、6 日は消費関連株の上昇にけん引されて 1.4%高と反発すると、7 日も小幅に続伸している。個別ではベトインバンクが 10.2%高、サコムバンクが 9.3%高となった一方、サイゴンビール・アルコール飲料が 8.0%安、ハノイ・ビア・アルコール・アンド・ビバレッジが 7.6%安となった。今週は新型肺炎情勢の動向次第か。

▼指数チャート



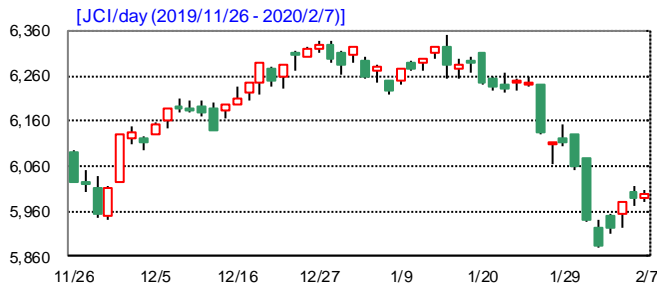


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.0%高、今週は上値追いに期待

ジャカルタ総合指数は週間で 1.0%高と 3 週ぶりに反発。週初に下落したが、その後は週末まで 4 日続伸と堅調だった。3 日は取引を再開した中国本土市場の指数が急落した流れで売られ、3 営業日続落。一方、4 日は新型コロナウイルスの感染拡大による国内経済への影響が軽微にとどまるとの見方が広がった効果で反発すると、5 日は 19 年 10-12 月期の GDP が市場予想を小幅に下回ったものの、追加の景気刺激策への期待感から買われた。週後半も中央銀行が今年の経済成長について楽観的な見解を示していることが好感されて買い優勢となった。今週は前週の勢いを維持し、上値を迫る展開になるか。

▼指数チャート

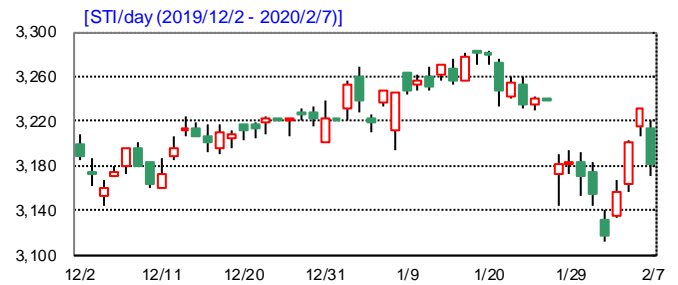


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.9%高、1 月の製造業 PMI は 50 ポイントを維持

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.9%高と 3 週ぶりに反発。荒い値動きが続いた。週初の 3 日は前営業日比 1.2%安と 3 営業日続落。一方、4 日は前日の取引終了後に発表された 1 月の製造業 PMI が 50.3 と前月の 50.1 を上回った効果で前日比 1.3%高と反発した。5 日は金融通貨庁が政策緩和の可能性を示唆し前日比 1.4%高、6 日は中国が一部の米国製品に対する追加関税の引き下げを発表したことが好感されてさらに 1.0%上昇したが、7 日は銀行最大手の DBS グループが今年の経済成長率見通しを下方修正した影響で前日比 1.5%安と反落して引けた。今週は 12 日に 19 年 12 月の小売売上高が発表される予定。

▼指数チャート

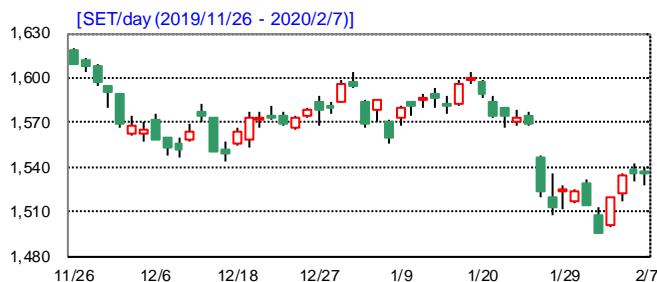


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.4%高、中央銀行が政策金利を過去最低水準に引き下げ

SET 指数は週間で 1.4%高と 3 週ぶりに反発。予想外の政策金利引き下げが好感された。週初の 3 日は前週後半から下げ止まらず、終値で節目の 1500 ポイントを割り込んだが、4 日は中国人民銀行（中央銀行）が前日に続き大規模な資金供給を実施し、中国本土市場の指数が上昇した効果で、前日比 1.6%高と 4 営業日ぶりに反発。5 日は中央銀行が政策金利を 0.25%引き下げて過去最低水準となる 1.00%に設定したことで買われ、前日比 1.0%高と続伸した。週後半は小幅な値動きで推移している。今週は国内の経済イベントが少なく、外部要因が指数を左右する展開か。10 日はマカブーチャ（万仏祭）の祝日で休場。

▼指数チャート

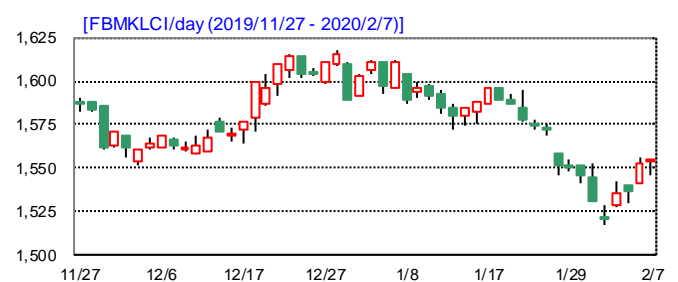


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.5%高、今週は 12 日に 19 年 10-12 月期の GDP 発表

クアラルンプール総合指数は週間で 1.5%高と 3 週ぶりに反発。週初は下落したが、その後は堅調に推移した。3 日は中国本土株の下落に連動して売られ、10 営業日続落。一方、4 日は 19 年 12 月の輸出額が前年同月比 2.7%増と 5 カ月ぶりに前年の水準を上回った効果で反発した。6 日は中国が米国製品に対する輸入関税の一部を 14 日に引き下げると発表したことが好感され、前日比 1.0%上昇すると、7 日は引け際の買い戻しが奏功し、4 日続伸して引けている。今週は 12 日に 10-12 月期の GDP が発表される予定で、市場予想から上振れすれば好材料。外部要因ではパウエル FRB 議長の議会証言が焦点になる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。